

様似郷土館だより

— 2025年2月号 Vol.11 —

編集・発行：様似郷土館

〒058-0024 北海道様似郡様似町会所町1番地 / TEL 0146-36-3335 / Mail samanikyoudokan@future.ocn.ne.jp

新年早々にインフルエンザAに罹りました。予防接種も受けていたのですが、高熱とせきに悩まされる年明けでした。今年もインフルエンザとコロナが流行っているので、手洗いうがいを徹底し、皆様もお気を付けください。1月は紀要の編集作業、現在作成中のアイヌ紹介HPの「Shamai Ainu」の調整、予算など内部での活動が多かったです。2月からは町外での活動や自然史研究会などもありますので、風邪をひかないように気合を入れて頑張ります！

現在、様似町公式YouTube「さまちゃん」にて様似町の花、鮭漁、昆布漁の紹介動画3本を掲載しております。数年前に郷土館が作成した動画です。他にもシルエットクイズや漁師さんへのインタビューなどが館内のタブレットで視聴可能です。(榎本尊)

カンカン講座 1月

【報告】

1月18日(土)に観音山で温風穴の観察会が実施されました。小川司書から風穴に関する本の紹介がありました。観音山は積雪しており、雪の上を歩きながら山頂を目指しました。加藤学芸員より観音山の桜まつりやアイヌ伝説の解説があり、温風穴では風穴の仕組みなどの解説がありました。温風穴の周りには雪がなく、風穴の出口は9度ほどで外気温+10度ほどでした。観音山の風穴については様似郷土館紀要2号で詳細に報告されています。榎本学芸員からは風穴環境を好むチシマオサムシや冬場に活動する4種の昆虫を紹介しました。観音山展望台には大きな氷柱があり、白く雪に覆われた様似町内やアポイ岳を一望できました。



昆虫紹介 「チシマオサムシ」

チシマオサムシは国内では北海道のみに生息し、6つの亜種が知られています。亜高山帯や永久凍土の存在する寒い地域に局地的に分布しています。様似には残念ながら生息していません。様似郷土館には利尻島、礼文島、遠軽町で採集した本種を収蔵していますので、実物を見たい方は郷土館まで！

風穴周辺では森林性のオサムシの種数・個体数は少ない傾向にありますが、チシマオサムシのような特殊な虫は好んで生息しています。



カンカン講座 2月

【予告】

「“ハエ“の世界を見てみよう」

- 【日時】 2月22日(土) 10:00~12:00
- 【場所】 様似町中央公民館2階 小ホール
- 【申込】 様似町アポイ岳ジオパーク推進協議会まで
(0146-36-2120)
- 【期限】 2月21日(金)まで
- 【参加料】 無料
- 【内容】 様似町のハエを観察し、一緒に勉強してみませんか？
- 【持ち物】 ハエへの探求心

2025年2月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3 休館日	4	5	6	7	8
9	10 休館日	11 祝日	12 休館日	13	14	15
16	17 休館日	18	19	20	21	22
23 天皇誕生日	24 振替休日	25 休館日	26	27	28	

10:00~16:30 開館 入館無料

展示解説、団体見学、郷土館資料の体験会等も実施しておりますので、希望者は様似郷土館へお問い合わせください。

2025年「へび年」に因んだへびの解説

2025年は6番目の干支のへび年です！へびに関するお話をこの機会に掲載します。様似町でも出会える身近なへびから、なかなか出会えない珍品まで学芸員一押しのへびをご紹介します。関係する昆虫についても取り上げます。

北海道内のへび(全5種)

① アオダイショウ(青大将)

町内で最も身近にみられるへび。様似川周辺で見かける機会が多く、夏場には車に轢かれた個体もよく見ます。温厚な性格のため飼育もしやすいが、150cmほどまで成長する道内最大種。北海道産は本州産に比べて緑色の美しい鱗を持つ個体もあり、エゾグリーンやエゾブルーと呼ばれます。



アポイ岳で発見した個体



骨格標本

② シマへび(縞蛇)

アオダイショウと同じく出会いやすい蛇です。目が赤く、成体はスジ模様が入っています。性格が荒い個体も多く、過去に飼育した個体は頻りに尾を震わせて威嚇し、噛みついてきました。飼育は簡単ですが、なつきにくいです。

②+α カラスへび(シマへびの黒化型)

シマへびの黒化型の個体。真っ黒なへびで学芸員一押しの種類。石狩市と札幌市で2回だけ見たことがあります。出会える数は少ないです。



2020年飼育個体のシマへび



2020年飼育個体のカラスへび

③ ジムグリ

「地に潜る」からジムグリと呼ばれ、土や穴の中で暮らし、先述の2種に比べて出会う機会も少ないです。蒸れに弱く飼育は難しいです。2024年には中央公民館前で幼蛇を確認しています。



ジムグリの幼蛇
島牧村で撮影

④ シロマダラ

道内で最も珍しい蛇。白黒のまだら模様の小型種。爬虫類専食のへびで飼育は難しい。一度も出会ったことがない蛇のため憧れのへび！札幌市での目撃例が最も多く、日高地方での報告例はないと思われます。見つけたら、郷土館まで。

⑤ ニホンマムシ

有毒なへび。噛まれると大変危険なため、近づかないようにしましょう。死亡例もあります。短く太い蛇のため、他の種と体形が異なり、頭部は三角形です。幌満峡やアポイ岳5合目以降で日光浴中の個体を見かけます。性格は比較的大人しいため、刺激をしたり踏まない限りは襲ってきません。特定動物に指定されているため、許可がないと飼育不可です。写真は2024年にアポイ岳の麓で撮影した個体です。ちなみに、様似町では1972年にマムシ養殖産業が実施されましたが、成功せず。1977年に事業は打ち切られました。養殖をしていたとは面白いですね。



へびに関する昆虫

☆へびの名を冠する昆虫「へびトンボ」

トンボのように幼虫は水の中で、成虫は陸上生活をします。幼虫は孫太郎虫という薬として知られていました。成虫は夜間のライトに飛来します。へびの様な長い頭部と噛みつく姿から名が付けました。トンボではなくアミメカゲロウの仲間です。

他にもへびイチゴハモグリバエ、へびイチゴハバチ、へびノボラズツトアブラムシなどが「へび」を名に含みます。これらは植物の名前が由来の昆虫です。



様似町産へびトンボ へびトンボ幼虫

・様似町では様似川、幌満川で幼虫が多数確認できています。成虫の頭部は背中にくっつくくらいよく曲がります。噛まれても痛くはないです。

☆へびの威を借る昆虫

へびに擬態することで鳥などの捕食者に対して、捕食リスクを減らす蛾が知られています。幼虫ではピロードスズメガ、成虫ではヨナグニサン。気になる方は画像検索してみてください♪